

## 令和2年度第2回デ活シンポジウム

「今、改めて首都直下地震と向き合う

～観測データを相互利活用するための課題～

日時：2020年10月5日（月）15:00～17:00

場所：オンライン開催

### はじめに

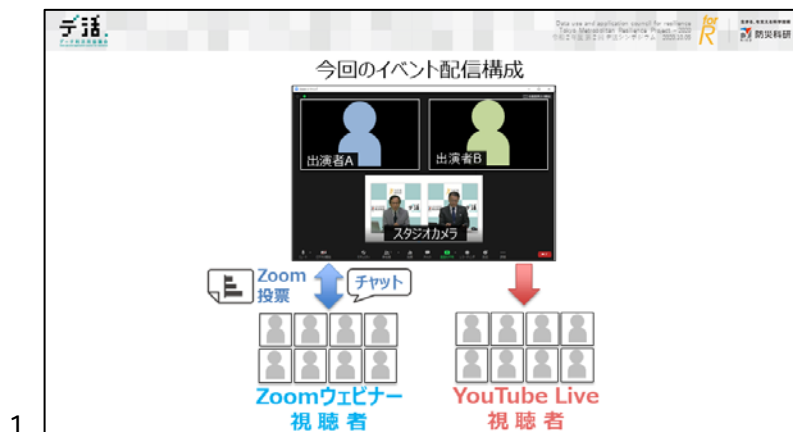
下村 健一（令和メディア研究所主宰 / 白鷗大学 特任教授 / 元TBSキャスター）

これより令和2年度第2回デ活シンポジウムを開催します。毎年4回ほど開催していますが、今回は今年度2回目ということで、「今、改めて首都直下地震と向き合う～観測データを相互利活用するための課題～」と題し、これから2時間弱、皆さんと一緒に議論を深めていきたいと思ひます。

進行役の私は令和メディア研究所主宰の下村健一と申します。以前はTBSでニュースキャスターをしておりましたので、難しくなりそうなテーマをなるべくほぐして、皆さんで理解しながら前に進んでいく形で進行させていただきたいと思ひます。

今回も平田先生とご一緒させていただきます。平田先生は、防災科学技術研究所の首都圏レジリエンスプロジェクトの総括でいらっしゃいます。本日もよろしくお祈ひします。それでは、さっそく始めていきたいと思ひます。

まずは本シンポジウムの開催方法のご説明です。本日はライブ配信でご覧いただひていますが、図表1のような二重構造になっています。あらかじめ視聴を申し込まれた方はZoom Webinarで、その他の方にはYouTube Liveでご覧いただひています。現在Zoom Webinarでは190名、YouTube Liveでは100名弱の方



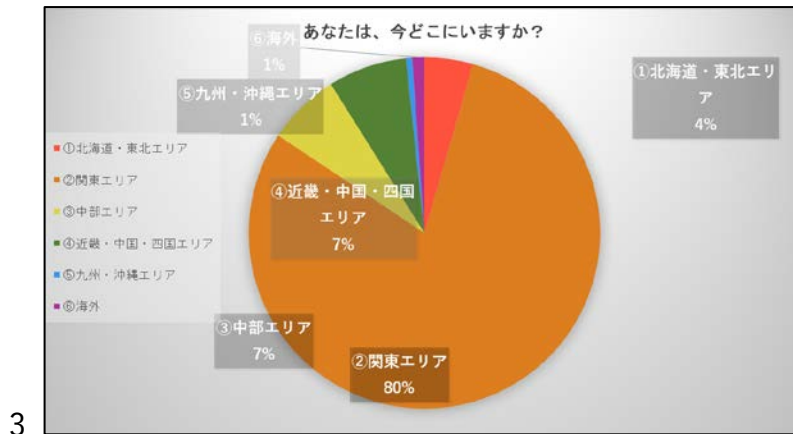
にご参加いただいておりますが、事前申し込みは 463 名でしたので、まだこれから続々と入ってきていただけるのではないかと思います。昨年までは実際に会場に集まっていただき、200～300 人規模で開催していましたが、今回はライブ配信で 380 名にご参加いただきました。

今回も、Zoom Webinar でご覧いただいている方には、Zoom 投票の仕組みでこちらから問い掛けをして、その回答をリアルタイムで議論に生かしたいと思っています。早速、練習を兼ねて、Zoom 投票の第 0 問をお尋ねします。「あなたは、今どこにいますか」(図表 2)。Zoom Webinar でご覧の皆さんは、画面の中央に小窓が開いて選択肢が表示されていると思います。北海道・東北エリアでご覧の方は①、関東エリアの方は②、中部エリアの方は③、近畿・中国・四国エリアの方は④、九州・沖縄エリアの方は⑤、海外からご覧の方は⑥を押してください。YouTube でご覧の方は、この Zoom 投票にはご参加いただけません。

このような形で、本日 2 時間弱の議論の中で、こちらから時々お尋ねしていきたいと思っております。ただ、これは新型コロナウイルス感染拡大で集まれなくなったのでやむを得ず行っているのではなく、このように Web で行うことによって、災害が起きて物理的に集まれなくなったときもみんなで情報交換できるよう、知見を集めていこうという、とても貴重な試みです。



それでは、結果を見てみましょう（図表 3）。やはり関東が 8 割ですが、その他にも北海道・東北エリアが 4%、中部エリアが 7%、近畿・中国・四国エリアが 7%、九州・沖縄エリアが 1%、海外が 1%いらっしゃいます。去年までの大ホールの壁を取り払い、今回からは日本の国境も取り払って世界中から参加していただいています。ぜひこの後もこのままお付き合いいただきたいと思います。



それでは、開会に先立ちまして、文部科学省研究開発局の鎌田地震・防災研究課長よりごあいさつを頂きます。